

2017年10月3日(第5回)  
2017年度JLA中堅職員ステップアップ研修(1)  
領域2-B①

レファレンスツールの評価  
徳森耕太郎(大阪府立中央図書館)

1 はじめに

1.1 現状の確認

- 図書館の資料は膨大/利用者のニーズは多様
  - ・図書館の資料: 全分野(0門-9門)/大人向けから子ども向けまで/過去からの蓄積
  - ・利用者のニーズ: 全分野(0門-9門)/大人から子どもまで/必要とする情報の精粗
  - ・これを知らばすべて大丈夫、絶対評価を得られるレファレンスツールはない
  - ・日々研鑽を積んで、「よいレファレンスツールとは何か」を体得していくもの

1.2 本講義の目的

- 日常業務の実体験の中から、よい「レファレンスツール」とは何か、に「気づく」
- それぞれの図書館でレファレンスの際に工夫していることを引き出す
- その工夫をここにいる全員のものにして、レファレンス力の向上につなげていく

2 レファレンスサービスとは

■大きく2種に大別

- 調査・研究への援助
  - ・図書館資料の見つけ方の説明
  - ・調査・研究にあたっての合理的手順の説明
  - ・調査すべき書誌や参考図書類の具体名の提示
  - ・それらの使用方法の解説
- 参考質問への回答
  - ・所蔵・所在調査
  - ・事実調査
  - ・文献調査
  - ・より専門的な調査機関への照会・紹介(レフェラルサービス)

⇒2種がそれぞれ独立しているのではなく、相互に輻輳して進められることが多い

3 レファレンスツールの評価とは

3.1 レファレンスツールとは

⇒膨大な図書館の資料や情報と多様な利用者ニーズを結びつけるツール(道具)

○参考図書:

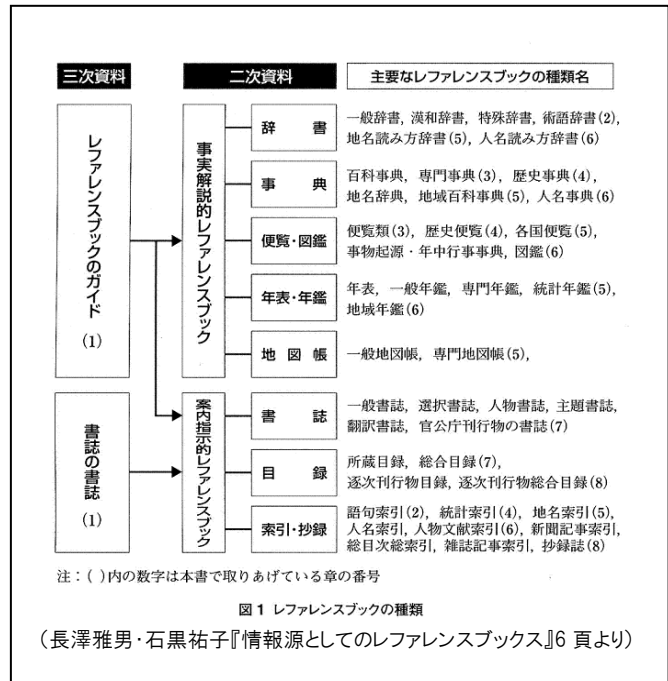
いわゆる辞典・事典類(事実解說的)  
および目録類(案内指示的)

○インターネット情報

○自館作成ツール:

各館で必要に応じて作成した目録類や  
パスファインダー

⇒本日はこのうち、参考図書とインターネット情報について考える



3.2 評価の目的と基準

○図書館におけるレファレンスツール(レファレンスブック)の評価の目的

・図書館において適切なレファレンス・コレクションを構成するため

⇒「評価に際しては、既存のコレクション中の個々の図書の情動的価値と利用者の要求とを十分に勘案しなければならない」(長澤雅男・石黒祐子『情報源としてのレファレンスブック:新版』p15)

○レファレンスツールの評価の基準

・膨大な図書館資料や情報と多様な利用者のニーズを「効率よく効果的に」結びつけることができるかどうか

⇒「効率よく効果的に」結びつけることのできるツールがよいレファレンスツール

## 4 日頃の業務でよく使う参考図書およびインターネットサイト

## 4.1 事前課題の結果から

○日頃の業務でよく使う参考図書(上位5位; 詳細は【参考資料1】)

※支持率: 受講生中何名の支持を得たかを示しています

順位	書名	出版者	得票数	支持率
1位	『総合百科事典ポプラディア』	ポプラ社	8票	23.5%
2位	『国史大辞典』	吉川弘文館	6票	17.6%
	『世界大百科事典』	平凡社	6票	17.6%
4位	『広辞苑』	岩波書店	5票	14.7%
5位	『日本大百科全書』	小学館	4票	11.8%

(全34名 全票数91票)

○日頃の業務でよく使うインターネットサイト(上位5位; 詳細は【参考資料2】)

順位	サイト名	アドレス	得票数	支持率
1位	国立国会図書館ホームページ	<a href="http://www.ndl.go.jp/">http://www.ndl.go.jp/</a>	33票	44.1%
	レファレンス協同データベース	<a href="http://crd.ndl.go.jp/">http://crd.ndl.go.jp/</a>	15票	
	国立国会図書館サーチ	<a href="http://iss.ndl.go.jp/">http://iss.ndl.go.jp/</a>	9票	
	国立国会図書館	<a href="http://www.ndl.go.jp/">http://www.ndl.go.jp/</a>	2票	
	国立国会図書館オンラインサービス	<a href="http://www.ndl.go.jp/service/online_service.html">/jp/service/online_service.html</a>	2票	
	リサーチ・ナビ	<a href="http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/">http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/</a>	2票	
	NDL-OPAC	<a href="http://ndl.opac.ndl.go.jp/">http://ndl.opac.ndl.go.jp/</a>	1票	
	デジタルコレクション	<a href="http://dl.ndl.go.jp/">http://dl.ndl.go.jp/</a>	1票	
	キッズページ	<a href="http://www.kodomo.go.jp/kids/">http://www.kodomo.go.jp/kids/</a>	1票	
2位	絵本ナビ	<a href="http://www.ehonnabi.net/">http://www.ehonnabi.net/</a>	8票	23.5%
3位	CiNii Articles	<a href="http://ci.nii.ac.jp/">http://ci.nii.ac.jp/</a>	7票	20.6%
4位	Amazon	<a href="https://www.amazon.co.jp/">https://www.amazon.co.jp/</a>	4票	11.8%
	Wikipedia	<a href="https://ja.wikipedia.org/">https://ja.wikipedia.org/</a>	4票	11.8%
	Google	<a href="http://www.google.co.jp/">http://www.google.co.jp/</a>	3票	8.8%
	Google 画像検索	<a href="http://www.google.co.jp/imghp?hl=ja">http://www.google.co.jp/imghp?hl=ja</a>	1票	2.9%

(全34名 全票数92票)

○日頃の業務でよく使う参考図書・サイトの分析

- ・「手がかりが得られるもの」又は「調査の次のステップに進めるもの」 → 網羅性、情報量
- ・書誌事項とその所在が得られるもの
- ・郷土関係の情報の載ったもの

○【参考】図書館員が選んだレファレンスツール 2015/ベスト10  
(第17回図書館総合展 日外アソシエーツ主催フォーラム)

## ・参考図書の一部

順位	書名	出版者	得票数	
1位	『国史大辞典』	吉川弘文館	57票	2位
2位	『角川日本地名大辞典』	角川書店	41票	6位
3位	『日本国語大辞典』	小学館	39票	11位
4位	『理科年表』	丸善	29票	
5位	『世界大百科事典』	平凡社	25票	2位
	『大漢和辞典』	大修館書店	25票	6位
7位	『日本大百科全書』	小学館	24票	5位
8位	『国書総目録』	岩波書店	21票	
9位	『現代用語の基礎知識』	自由国民社	15票	☆
	『広辞苑』	岩波書店	15票	4位

## ・インターネット情報源・DBの一部

順位	書名	出版者	得票数	
1位	CiNii Articles	国立情報学研究所	96票	3位
2位	CiNii Books	国立情報学研究所	59票	
3位	ジャパンナレッジ Lib	ネットアドバンス	58票	7位
4位	NDL-OPAC	国立国会図書館	48票	1位
5位	国立国会図書館デジタルコレクション	国立国会図書館	36票	1位
6位	日経テレコン	日本経済新聞デジタルメディア	35票	
7位	聞蔵Ⅱ	朝日新聞社	34票	
8位	ウィキペディア	ウィキメディア財団	29票	4位
9位	国立国会図書館サーチ	国立国会図書館	27票	1位
10位	D1-Law.com	第一法規	24票	☆

[http://www.nichigai.co.jp/cgi-bin/ref2015\\_result.cgi](http://www.nichigai.co.jp/cgi-bin/ref2015_result.cgi)  
右端は今回の課題での順位。☆は1票でも入っていた参考図書

○【参考】調査に使う/回答を可能としたレファレンスブック・ベスト 20(2011)

間部豊・小田光宏「レファレンス質問への回答を可能にしたレファレンスブックの特性に関する研究」  
『日本図書館情報学会誌』第 187 号(2011 年)による

実際の調査によく使用されるレファレンスブック		回答を可能としたレファレンスブック	
1	国史大辞典	1	国史大辞典
2	日本大百科全書	2	日本大百科全書
3	日本国語大辞典	3	日本国語大辞典
4	国書総目録	4	岡山県歴史人物事典
5	J-BISC	5	角川日本地名大辞典
6	官報	6	古典籍総合目録
7	角川日本地名大辞典	7	世界大百科事典
8	古典籍総合目録	8	岡山県大百科事典
9	人物レファレンス事典	9	日本歴史地名大系
10	世界大百科事典	10	群書類従
11	広辞苑	11	国書総目録
12	大漢和辞典	12	官報
13	群書類従	13	中国学芸大事典
14	翻訳図書目録	14	日本古典文学大系
15	大宅壮一文庫雑誌記事索引 (CD-ROM)	15	現代用語の基礎知識
16	日本歴史地名大系	16	日本古典文学大辞典
17	日経テレコン 21	17	岡山県史
18	人物文献目録	17	人物レファレンス事典
19	中国学芸大事典	17	大漢和辞典
20	現代用語の基礎知識	20	広辞苑

⇒ 日頃よく使うレファレンスツールがよいレファレンスツールであることを経験的に知っている

#### 4.2 レファレンスツールの評価

○評価に関わる三要素(長澤雅男・石黒祐子『情報源としてのレファレンスブック:新版』から)

- ・製作に関わる要素: 編著者/出版者/出版年
- ・内容に関わる要素: 範囲の設定/扱いかた/項目の選定/排列方法/検索手段/収録情報の信憑性
- ・形態に関わる要素: 印刷/挿図類/造本

#### 4.3 レファレンスツールの限界

⇒どこまでしか調べられないかを知ることも重要な「評価」

## 5 意外な時に使えた参考図書およびインターネットサイト

⇒意外な時に使えたレファレンスツール …→ 日頃の業務でよく使うレファレンスツールに

○意外な時に使えた参考図書(詳細は【参考資料 3】)

- ・『ポプラディア』 3 票 → [よく使う]8 票(1 位)
- ・『国史大辞典』 2 票 → [よく使う]6 票(2 位)

○意外な時に使えたインターネットサイト(詳細は【参考資料 4】)

- ・「国立国会図書館」 6 票 → [よく使う]33 票(1 位)
- ・「Google」 5 票 → [よく使う]4 票(4 位)
- ・「Wikipedia」 4 票 → [よく使う]4 票(4 位)
- ・「絵本ナビ」 3 票 → [よく使う]8 票(2 位)

## 6 おわりに

### 6.1 自己研鑽について

- レファレンスサービスはチームプレー
- チェックリストによる評価
- 調査ガイドの作成

### 6.2 まとめ

○よい「レファレンスツール」とは

- ・日常業務の中でレファレンスを経験して研鑽を積んでいくもの
- ・経験的によいレファレンスツールを選択している
- ・基本的にはよく使うレファレンスツールがよいレファレンスツール
- ・レファレンスツールの評価
- ・レファレンスツールの限界を知ること

○レファレンスの際に工夫していること

- ・本日参加者の報告の数々を参考に

○レファレンス力の向上につなげる

### 【参考文献】

- ・『実践型レファレンス・サービス入門(JLA 図書館実践シリーズ 1)』補訂版(斎藤文男・藤村せつ子著 日本図書館協会 2014.5)
- ・『情報源としてのレファレンスブックス:新版』(長澤雅男・石黒祐子/著 日本図書館協会 2004.5)
- ・間部豊・小田光宏「レファレンス質問への回答を可能にしたレファレンスブックの特性に関する研究」『日本図書館情報学会誌』第 187 号(日本図書館情報学会 2011)

他【参考資料 5】を参照